

学会だより

◇ 平成 29 年度第 3 回運営委員会要旨

日時：2017 年 9 月 9 日（土）14:00～17:30

場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 1 階 102 講義室

出席：堤，奥本，大澤，伊藤，最相，有村，山本，宍戸，北柴，石川，犬飼，佐藤，築山，吉田，石本，富田，齊藤【出席：17 名】

欠席：草場，甲斐【欠席：2 名】

各運営委員からの活動経過報告の後，以下の事項について審議された。

- ①中間決算報告，学会会計の現状と対策について
- ② Review Editor の企画による Invited Review の掲載料について
- ③育種学研究の発行体制の変更，特集記事の別刷進呈数の変更，育種学研究投稿規定の一部改訂について
- ④ 2018 年秋季大会の開催日程，2019 年春季大会の開催日程，2019 年秋季大会および 2020 年春季大会の開催地，高校生の発表について
- ⑤名誉会員の推戴について
- ⑥岩手代議員会の議事案について

◇ 第 4 回代議員会議事録

日時：2017 年 10 月 6 日（金）午後 3 時～午後 6 時

場所：岩手大学農学部 1 号館（岩手大学キャンパス）

出席者（理事・運営委員・監事・委員）：堤伸浩，奥本裕，最相大輔，有村慎一，犬飼剛，宍戸理恵子，石本政男，吉田均，佐藤豊，倉田のり【9 名】

欠席者（運営委員）：齊藤大樹【1 名】

出席者（代議員）：貴島祐治，久保友彦，高畑義人，石川隆二，北柴大泰，西尾剛，岡崎桂一，山本敏央，大澤良，半田裕一，田中剛，久保山勉，田中淳一，佐々英徳，中村郁郎，伊藤純一，桧原健一郎，吉田薫，村井耕二，小林麻子，掛田克行，石井尊生，築山拓司，清水顕史，辻本壽，草場信，前川雅彦，穴井豊昭，安井秀，田浦悟【30 名】

欠席者（代議員・議決権行使）：佐藤裕，金勝一樹，土井一行，甲斐浩臣，三浦秀穂，平野博之【6 名】

欠席者（代議員）：友岡憲彦，木庭卓人，富田因則，吉川貴徳【4 名】

議長：代表理事（堤会長）

議事録：運営委員（庶務担当 総務第二）

出席者数は代議員会の定足数（20）を満たしていた。

1. 報告事項

（ア）運営委員会報告（各運営委員）

会員数の推移・学会誌発行部数・HP 更新・メール配信数・契約【総務】

BS・シンボ科研費【科研費】

農学会：農学会シンポジウム等【農学会】

地域活動【各地域幹事】

中間決算報告【会計】

英文誌および和文誌編集状況・J-STAGE アクセス数・pdf ダウンロード数・PMC アクセス数・投稿規定の改訂・別刷り部数の変更【編集】

H29 年秋季大会開催準備状況・次大会開催予定【集会】

代議員・運営委員の交代について【総務】

（イ）その他

石原（志方）奨学金制度について【代表理事】

ゲノム編集に関する声明について【幹事長】

2. 審議事項

（ア）通常決議議案：平成 29 年度日本育種学会賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の 3 課題の日本育種学会賞候補の推薦理由について説明があった。

1. 阿部純（北海道大学大学院農学研究院）「遺伝資源を利用したダイズの開花および伸育性に関する分子遺伝学的研究」

2. 農研機構・北海道農業研究センター・バレイショ育種グループ（代表：森元幸）「北海道の栽培に適したジャガイモシストセンチュウ抵抗性，生食・調理加工用品種「キタアカリ」「とうや」「さやか」の育成」

3. 農研機構・果樹茶業研究部門・ブドウ「シャインマスカット」育成グループ（代表：山田昌彦）「欧州ブドウの食味を持ち，栽培容易な大型ブドウ品種「シャインマスカット」の育成」

投票の結果，出席者の 3 分の 2 以上の賛成票を得，3 件とも承認された。

（イ）通常決議議案：平成 29 年度日本育種学会奨励賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の 3 課題の日本育種学会奨励賞候補の推薦理由について説明があった。

1. 藤田大輔（佐賀大学農学部応用生物科学科）「インド型イネに関する収量性関連遺伝子の同定と改良」

2. 門田有希（岡山大学大学院環境生命科学研究科）「高速シーケンサーによるレトロトランスポゾン遺伝解析技術の開発とその活用」

3. 竹久妃奈子（農研機構・次世代作物開発研究センター）「イネの栄養応答機構解明のための遺伝子発現情報基盤の構築と応用研究への展開」

投票の結果、出席者の3分の2以上の可票を得、3件とも承認された。

(ウ) 学会会計の現状と対策について【代表理事】

代表理事と各担当幹事より以下4項目について説明と提案があった。

1. 現状報告、実施済み対策【代表理事】
2. 庶務関連【幹事長】
3. 和文誌編集関連【編集】
4. 英文誌編集関連【編集】

審議の結果、すべての提案内容が承認された。尚、第68回総会（九州大学）迄に学会員へアナウンスする事となった。

(エ) Review Editorの企画によるInvited Reviewの掲載料について【編集】

学会の国際情報発信強化のために新たに創設するInvited Reviewは、オンライン化に伴い掲載料、カラーページ代、超過ページ代を無料とすることが提案された。審議の結果、提案内容が承認された。

(オ) 編集員の新任について【編集】

編集委員2名の新任が提案された。審議の結果、京都府立大学大学院の大坪憲弘氏と農業・食品産業技術総合研究機構の吉田均氏が編集委員となることが承認された。

(カ) 名誉会員の推戴について【代表理事】

喜多村啓介氏、谷坂隆俊氏、佐々木卓治氏の3名の名誉会員推戴が提案された。審議の結果、提案内容が承認された。

3. その他

(ア) 関連報告

第23期日本学術会議（倉田委員）、シンポジウム委員会、男女共同参画推進委員会、第132回講演会記者発表、JABEE公益財団法人農学会技術者教育推進委員会について報告があった。

(イ) その他

優秀発表賞の投票について

運営委員（庶務担当）より、講演会の優秀発表賞の投票について説明があった。

代議員より、石原（志方）奨学金制度の導入に伴って投票方法や審査対象自体について見直しが必要との意見が出され、今後運営委員で検討することとなった。

◇ 第132回講演会記者発表報告

発表日時：平成29年9月28日（木）

場所：東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室

出席者：大澤良、有村慎一

参加機関：日経BP、日本農業新聞、化学工業日報、毎日新聞社、科学新聞社

記者発表希望演題の中から以下の5課題について記者発表を実施した。

発表タイトル：

- (1) 「CRISPR/Cas9を用いたダイズにおけるゲノム編集プラットフォームの構築」
- (2) 「MutMapPlus法による米デンプン糊化性変異原因遺伝子の同定と多様な米飯物性を示すイネ育種素材の開発」
- (3) 「コムギ縞萎縮病に強い小麦新品種「タマイズミR」の育成」
- (4) 「水稻新品種「いちほまれ」の育成」
- (5) 「*Brassica rapa*の種内一側性不和合性を支配する花粉・柱頭認識因子の決定」

講演タイトル：

- (1) 422 「CRISPR/Cas9を用いたダイズにおけるゲノム編集プラットフォームの構築」

金刺佑平¹、廣瀬亜矢¹、高橋一平¹、三上雅史²、遠藤真咲³、廣瀬咲子³、土岐精一³、加賀秋人⁴、内藤健⁵、石本政男⁴、阿部純¹、山田哲也¹（1. 北大院農、2. 横浜市大院・生命ナノ、3. 農研機構・生物機能利用部門、4. 農研機構・次世代作物開発研究センター、5. 農研機構・遺伝資源センター）

- (2) P046 「MutMapPlus法による米デンプン糊化性変異原因遺伝子の同定と多様な米飯物性を示すイネ育種素材の開発」

山川博幹¹、高木宏樹²、中田克¹、宮下朋美¹、黒田昌治¹、山口武志¹、梅本貴之³（1. 農研機構・中央農業研究センター、2. 石川県立大、3. 農研機構・次世代作物開発研究センター）

- (3) P009 「コムギ縞萎縮病に強い小麦新品種「タマイズミR」の育成」

藤田雅也、乙部千雅子、高山敏之、小島久代、蝶野真喜子、藤田由美子（農研機構・次世代作物開発研究センター）

- (4) 518 「水稻新品種「いちほまれ」の育成」

小林麻子、富田桂、町田芳恵、中岡史裕、両角悠作、林猛、田野井真、渡辺和夫、酒井究、清水豊弘（福井県農業試験場）

- (5) 605 「*Brassica rapa*の種内一側性不和合性を支配する花粉・柱頭認識因子の決定」

高田美信¹、村瀬浩司^{2,3}、下里（浅野）裕子²、佐藤陽洋¹、中西ほのか⁴、諏訪部圭太⁵、Lim Yong Pyo⁶、清水健太郎^{7,8}、高山誠司^{2,3}、鈴木剛⁴、渡辺正夫¹（1. 東北大・院・生命、2. 奈良先端大・バイオ、3. 東大農学生命科学、4. 大阪教育大・教育協働、5. 三重大・院・生物資源、6. 忠南大、7. チューリッヒ大・進化生物学環境学、8. 横浜市大・木原生研）

◇ 第132回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2017年日本育種学会秋季大会（第132回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の9課題に決定されました。

講演番号 117：イネ極晩生変異体 *t-65late* の原因遺伝子の探索と分子学的解析

☆吉津祐貴¹，一谷勝之²，畠山勝徳¹，高畑義人¹，横井修司³（1. 岩手大・農，2. 鹿児島大・農，3. 大阪府立・生命環境科学）

講演番号 218：イネの葉身葉鞘比を決定するメカニズムの解析

☆志賀敏秀，鳥羽太陽，徳永浩樹，植本悟史，経塚淳子（東北大・院・生命科学）

講演番号 221：*embryoless* 変異体を用いたイネの胚・胚乳サイズ比率制御機構の解析

☆金川真実¹，松本和也²，石川亮²，伊藤純一¹，桧原健一郎¹（1. 東大院農学生命科学，2. 神戸大院農学）

講演番号 605：*Brassica rapa* の種内一側性不和合性を支配する花粉・柱頭認識因子の決定

☆高田美信¹，村瀬浩司^{2,3}，下里（浅野）裕子²，佐藤陽洋¹，中西ほのか⁴，諏訪部圭太⁵，Yong Pyo Lim⁶，清水健太郎^{7,8}，高山誠司^{2,3}，鈴木剛⁴，渡辺正夫¹（1. 東北大・院・生命，2. 奈良先端大・バイオ，3. 東大農学生命科学，4. 大阪教育大・教育協働，5. 三重大・院・生物資源，6. 忠南大，7. チューリッヒ大・進化生物学環境学，8. 横浜市大・木原生研）

講演番号 P101：イネにおける植物ホルモンのイメージング実験系の評価

☆佐藤萌子，藤田尚子，辻寛之（横浜市大・木原生研）

講演番号 422：CRISPR/Cas9を用いたダイズにおけるゲノム編集プラットフォームの構築

☆金刺佑平¹，廣瀬亜矢¹，高橋一平¹，三上雅史²，遠藤真咲³，廣瀬咲子³，土岐精一³，加賀秋人⁴，内藤健⁵，石本政男⁴，阿部純¹，山田哲也¹（1. 北大院農，2. 横浜市大院・生命ナノ，3. 農研機構・生物機能利用部門，4. 農研機構・次世代作物開発研究センター，5. 農研機構・遺伝資源センター）

講演番号 604：ソバの花器特異的な *exo*-ポリガラクトナーゼと異形花型との関わり

☆竹島亮馬¹，西尾剛²，小松節子³，倉内伸幸⁴，松井勝弘¹（1. 農研機構・次世代作物開発研究センター，2. 東北大・院農学研究科，3. 筑波大・院生命環境，4. 日本大・生物資源科学）

講演番号 P041：酒米品種「山田錦」の心白発現 QTL である *qWCY6* の高精度マッピングへ向けた表現形質調査方法の検討

☆岡田聡史，横山若菜，末廣美紀，山崎将紀（神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター）

講演番号 P057：自律複製する葉緑体形質転換ベクター

の複製起点に関する研究

☆児島和志¹，植村香織²，寺地徹²（1. 京産大・院生命科学，2. 京産大・総合生命科学）

◇ 地域談話会だより

〈東北地区〉

11月25日に第12回東北育種研究集会在、秋田県立大学（大会委員長：赤木宏守）が開催校となり開催されました。秋田市カレッジプラザを会場に、2人の講演と28題のポスター発表が行われ、53名（内31名が学部生ならびに大学院生）の参加がありました。藤田直子氏（秋田県立大学生物資源科学部）の「ダイエット米などユニークな澱粉を貯める新しい米の開発」についての講演1では、学生参加者向けにこれまでの研究過程とともに最新の機能性食品開発までが話されました。椿信一氏（秋田県農業試験場野菜・花き部）の「秋田県におけるスイカの育種」についての講演2では、これまで育種企業中心であったスイカ育種において、新たに公立研究機関が参入した経緯について、またF₁ハイブリッド品種開発のありかた、ならびに明確な育種目標のありかた、さらに県の品種開発のあり方として、基幹となる品種名をもとにしたシリーズ品種の開発の過程など興味ある話題を提供してもらいました。学部生ならびに大学院生が主体のポスター発表では、洗練されたポスター構成や将来を期待させる研究内容などが多数ありましたが、各県の選考委員による投票の結果、阿部晃之氏（弘前大学農学生命科学部），ならびに川上珠恵氏（山形大学大学院農学研究科）の2題が優秀ポスター賞に選ばれました。次回は弘前大学農学生命科学部で開催予定となりました。

開催の詳細は以下の通りです。

1. 日時：平成29年11月25日（土）13:25～17:00
2. 会場：カレッジプラザ 秋田市中通2丁目1-51 明徳館ビル2階
3. プログラム
 - ・講演1 藤田直子氏（秋田県立大学生物資源科学部）「ダイエット米などユニークな澱粉を貯める新しい米の開発」
 - ・ポスター発表
 - ・講演2 椿信一氏（秋田県農業試験場野菜・花き部）「秋田県におけるスイカの育種」
 - ・優秀ポスター賞表彰式
4. ポスター発表（☆：優秀ポスター賞エントリー発表者，○：発表者）

P01 Surveying genetic diversity in Ethiopian rice cultivars as inferred by SSR markers

☆ Tadesse Lakew¹，Ryuji Ishikawa^{1,2}（1. United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, 2. Faculty of Agriculture and Life Science, Hiroshima University）

P02 Screening and characterizing Cytoplasmic Male Sterile (CMS) in perennial wild rice populations (*Oryza rufipogon*)

☆ Dinh Thi Lam, Ryuji Ishikawa (Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University)

P03 黄ダイズ栽培集団における全面着色粒の発生について

☆ 葦名熙公¹, 押田和磨¹, 齋藤生², 千田峰生¹ (1. 弘前大・院農学生命, 2. 青森県産業技術センター)

P04 *O. rufipogon* と *O. meridionalis* が同所的に生息するオーストラリア野生イネ集団における自然交雑の検証

☆ 菅原魁人¹, 一谷勝之², 石川隆二¹ (1. 弘前大・院農学生命, 2. 鹿児島大・農)

P05 青森県の酒米への‘恋ほのか’由来胴割れ耐性の付与

☆ 阿部晃之, 石川隆二 (弘前大・農学生命)

P06 イネ胴割れ耐性系統“20T”のSNV解析および形質評価

☆ 笹森峻雅, 石川隆二 (弘前大・農学生命)

P07 ヒシのゲノムサイズ測定と次世代シーケンサーからの分子マーカー設置と多様性評価への応用

☆ 鶴岡優希, 石川隆二 (弘前大・農学生命)

P08 沖永良部におけるシークワサー様カンキツの特性解析

☆ 三島木隆広, 石川隆二 (弘前大・農学生命)

P09 オーストラリア固有野生イネに特徴的な小穂長形質解析

☆ 和田真宝¹, 菅原魁人¹, 一谷勝之², 植村真郷², 石川隆二¹ (1. 弘前大・農学生命, 2. 鹿児島大・農)

P10 アワの早期開花性の遺伝解析

田村静, 吉津祐貴, 高畑義人, ○畠山勝徳 (岩手大・農)

P11 老化期特異的セルラーゼ発現による稲わらの糖化性向上

市川晋¹, 古川佳世子¹, 園木和典², ○伊藤幸博¹ (1. 東北大・農, 2. 弘前大農学生命)

P12 稲わらの糖化性を決める遺伝子のマッピングとその要因の探索

☆ 伊藤叶裕, 阿部友美, 伊藤幸博 (東北大・院農)

P13 ダイコン在来品種におけるSハプロタイプ頻度の現状調査

☆ 長谷山祐里恵, 北柴大泰, 西尾剛 (東北大・院農)

P14 *Brassica napus* との雑種形成能における *Brassica rapa* の *BrFIEa* および *BrMSI1a* 遺伝子の遺伝的効果の検証

☆ 宮腰開, 齊藤光太郎, 殿崎薫, 北柴大泰, 西尾剛 (東北大・院農)

P15 イネの表皮分化に必要な受容体型プロテインキナーゼ遺伝子の同定

☆ 菊池達也¹, 小暮恵太¹, 小松陽花^{2,3}, 佐藤菜々^{2,4}, 高橋ほなみ¹, 伊藤幸博^{1,2} (1. 東北大・農, 2. 東北大・

科学者の卵養成講座, 3. 現・東北大・工, 4. 現・東北大・理)

P16 磁気ビーズを用いた変異型DNA濃縮法の省力化への試みと混入品種検出への応用

☆ 木幡龍弥, 北柴大泰, 西尾剛 (東北大・院農)

P17 ハマダイコンとセイヨウナタネを用いた強耐塩性雑種作出の試み

☆ 小林寛人, 西尾剛, 北柴大泰 (東北大・院農)

P18 未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析3

○ 鶴巻啓一¹, 笹沼恒男^{1,2} (1. 岩手大・院連合農, 2. 山形大・農)

P19 2種類の変異原を利用した水稻品種「つや姫」突然変異集団の作出と低アミロース突然変異体の単離

☆ 川上珠恵¹, 後藤元², 阿部洋平³, 本間猛俊³, 中場勝², 星野友紀¹ (1. 山形大・院農, 2. 山形農総研セ, 3. 山形農総研セ・水田農試)

P20 鶴岡産エダマメ系統「ダダチャマメ」の良食味を支配する遺伝子座解析に向けた試み

☆ 栗野莉奈¹, 飯島信繁², 上村千穂¹, 滝口可菜¹, 川上珠恵², 星野友紀^{1,2} (1. 山形大・農, 2. 山形大・院農)

P21 コーカサス地方及び中国青海省コムギ遺伝資源の基本農業形質に関する多様性評価

☆ 澤田小春¹, 平山可奈¹, 西田英隆², Zezua Asanidze³, Tamar Bragvadze³, Ivan Gabrielyan⁴, Gayane Melyan⁵, Alvina Avagyan⁵, Aghyan Sahakyan⁵, Tamara N. Smekalova⁶, Olga N. Kovaleva⁶, 田中裕之⁷, 佐藤和広⁸, 朱明婧⁹, 龍春林⁹, 笹沼恒男¹ (1. 山形大・農, 2. 岡山大・院環境生命, 3. イリア州立大, 4. アルメニア国立科学アカデミー・植物研, 5. アグラリアン大・農業バイオ科学センター, 6. バビロフ研, 7. 鳥取大・農, 8. 岡山大・植物研, 9. 中国民族大学)

P22 テッポウユリおよびシンテッポウユリにおける花粉ベクター法を用いた形質転換について

☆ 森山高広, 深井英吾, 岡崎桂一 (新潟大・院自然科学)

P23 萎黄病抵抗性タンパク質と相互作用するタンパク質の同定に向けて

☆ 梁瀬拓雄¹, 上杉百花¹, 神崎洋之², 清水元樹², Daniel John Shea¹, 藤本龍³, 深井英吾¹, 岡崎桂一¹ (1. 新潟大・院自然科学, 2. 岩手生工研, 3. 神戸大・院農)

P24 *Brassica rapa* における萎黄病抵抗性遺伝子 *FocBr1* の多型解析と選抜マーカーの開発

☆ 佐藤真帆¹, Daniel John Shea¹, 清水元樹², 藤本龍³, 深井英吾¹, 岡崎桂一¹ (1. 新潟大・院自然科学, 2. 岩手生工研, 3. 神戸大・院農)

P25 シロイヌナズ T-22 変異体の根系が示すカドミウム回避応答の解析

○渡辺明夫, 佐々木輝, 上田健治, 櫻井健二, 高橋秀和, 赤木宏守 (秋田県大・生物資源)

P26 1粒系モチコムギの育種を目指した分子マーカーの作成

☆三浦聡子¹, クロフツ尚子¹, 阿部美里¹, 村井耕二², 岩城啓子³, 藤田修三³, 藤田直子¹ (1. 秋田県大・院生物資源, 2. 福井県大・生物資源, 3. 梅花女子大・食文化)

P27 イネの花粉形成に重要なCAP1のL-アラビノキナーゼ活性

鈴木智博, 上田健治, 山波佐佑里, 櫻井健二, 渡辺明夫, 高橋秀和, 我彦廣悦, 赤木宏守 (秋田県大・生物資

源)

P28 *Oryza latifolia* のカドミウム耐性に関わる遺伝子の発現解析

高橋溪斗¹, 高橋美紀¹, 宮川典子², 上田健治¹, 櫻井健二¹, 高橋秀和¹, 渡辺明夫¹, 赤木宏守¹ (1. 秋田県大・生物資源, 2. 秋田県大・院生物資源)

〈近畿地区〉

近畿作物・育種研究会第183回例会が, 2017年6月3日(土)に京都大学大学院農学研究科附属木津農場において開催されました。例会では, 7題の一般講演がありました。参加者は68名であり, 活発な議論が行われました。また, 一般講演の優秀発表賞として, 池田裕一(近畿大学農学部)が選定されました。

一般講演:

①施設栽培における有機薄膜型太陽電池の利用。

○滝澤理仁・間合絵里・中崎鉄也・土井元章・北島宣 (京都大学大学院農学研究科)

②ダイズ種子の冠水時におけるAE発生数と発芽時冠水耐性との関係。

○近藤卓也・渡辺祐基・寺石政義・藤井義久・奥本裕 (京都大学大学院農学研究科)

③イネ品種銀坊主と日本晴の交雑後代に見い出されたmPing転移活性に関するQTLの効果。

○池田裕一¹・香野大樹²・吉田由梨²・奥本裕²・谷坂隆俊^{2,3}・築山拓司¹ (1. 近畿大学農学部, 2. 京都大学大学院農学研究科, 3. 吉備国際大地域創成農)

④点滴灌漑で節水型稲を栽培することの農学的な評価第2報貯蔵種子の発芽率および土壌の水分条件の違いが苗立率に及ぼす影響。

○劉杜長^{1,2}・Modinat Adekoya¹・周立国¹・孔徳艶¹ (1. 上海市農業科学院上海市農業生物遺伝子センター, 2. 京都大学大学院農学研究科)

⑤小麦種子収穫時の穀粒水分が発芽率に与える影響。

○中川淳也^{1,2}・片山寿人³ (1. 滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課, 2. 現・滋賀県農業技術振興センター, 3. 滋賀県庁農政水産部食のブランド推進課)

⑥出穂後追肥が小麦「ふくはるか」の手延べそうめん加工適性に及ぼす影響。

森下星子¹・辻章宏²・杉山高世¹・吉村昭信¹・西野精二¹・池田利秀³ (1. 奈良県農業研究開発センター, 2. 奈良県北部農林振興事務所, 3. 株式会社池利)

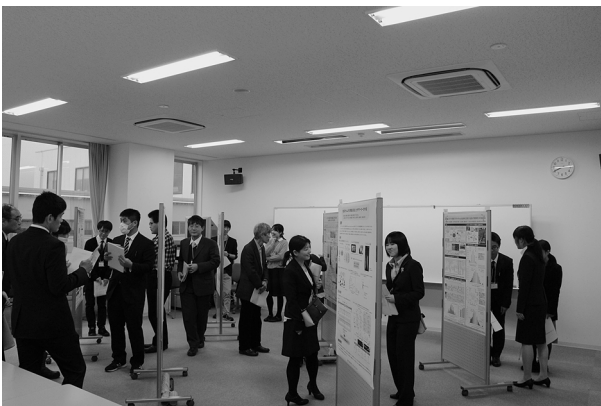
⑦ボリビア・ウユニ塩湖畔の劣悪環境下におけるキヌア栽培

○安井康夫¹・藤倉雄司²・齊藤大樹¹・上野まりこ¹・藤田泰成³ (1. 京都大学大学院農学研究科, 2. 帯広畜産大学, 3. 国際農林水産業研究センター)

また, 近畿作物・育種研究会第183回例会に引き続



講演会会場



ポスター発表会場



優秀ポスター賞表彰式 (副賞は秋田米新品種)

き、第10回現地検討会として、附属木津農場の見学会が開催されました。附属農場主事の北島宣教授の概要説明の後、20名ずつ3班に分かれ、ガスによって加温、発電、CO₂施用を同時に行うジェネレーションシステムを導入したバラの栽培温室、イチゴの繁殖温室をはじめ、最新の農業設備を備えた研究施設を見学し、これらの設備を利用した今後の研究展開について、熱心な意見交換が行われました。

日本育種学会会員異動(2017.7.21～2017.10.20)

◇普通会員入会：中丸観子（岩手）、WIN KHIN THUZAR（茨城）、高橋真実、松岡淳一（新潟）

◇学生会員入会：田添沙織、坂内寛明（北海道）、ハクエムダドウル（茨城）、SAIGHANI KALIMULLAH、山岡秀平、吉田沙樹（東京）、安川新平（神奈川）、SHEA DANIEL（新潟）、江尻真斗（福井）、井出健斗、岩田悠希、山田修土（愛知）、児島和志、児玉慧太（京都）、白柿薫平（大阪）

◇外国会員入会：岡田崇（オーストラリア）

住所変更等

◇普通会員：若生忠幸（岩手）、吉清翼（栃木）